

2007年2月1日

## 米 FOMC、政策金利据え置き、景気減速懸念が後退

1月31日、米FOMC（連邦公開市場委員会）は、昨年8月から5回連続で政策金利であるフェデラルファンド・レートの誘導目標を、現行の5.25%に据え置くことを決定しました。

また、同日公表された声明文を見てみると、引続きインフレ警戒姿勢は維持しましたが、昨年6月以来の「景気減速、物価上昇」を、足もとの堅調な雇用環境や住宅市場底入れの兆しなどを反映して、「景気堅調、物価改善」との楽観的な見方としました。

### 【景気】

前回（12月12日）までの声明文では、住宅市場の「著しい冷え込み」により景気は「減速」しているとしていましたが、今回の声明文では、住宅市場では「安定化の兆し」が見られ、景気はいくらか「堅調」となっていると景気判断を上方修正しました。

### 【物価】

前回（12月12日）までの声明文では、物価は「上昇している」としていましたが、今回の声明文では、「落ち着いてきている」と物価上昇圧力は緩和しつつあると判断しました。

さて、同日に発表されました米国の2006年10-12月期の実質GDP（国内総生産）成長率（速報）は、前期比+3.5%増と、前期（7-9月期）の+2.0%増から伸びを加速しました。これは、今回の声明文同様に、米国の景気は軟着陸しつつあり、景気減速あるいは失速に対する懸念を後退させる内容となりました。

以上

<http://www.cmam.co.jp/>

■当資料は、情報提供を目的として中央三井アセットマネジメントが信頼できると判断した情報をもとに作成した資料ですが、正確性、完全性を保証するものではありません。また、予告なしに変更される場合があります。■資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を保証・示唆するものではありません。将来の市場環境の変動等により、運用方針等が変更される場合があります。■投資信託は値動きのある証券等（外貨建証券は為替変動リスクも含みます。）に投資しますので、運用実績は市場環境により変動します。したがって、元金が保証されているものではなく、信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象とはなりません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合、投資者保護基金の対象とはなりません。■お申込みの際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。